



『頻尿』に関して

千葉県医師会理事

原

徹ととむ 医師



最近、やたらとTVや新聞・雑誌で頻尿、失禁の事が取り上げられています。何か新しい病気の事かと勘違いされる方もあるかと思いますが、実は古くからある症状を少し強調しているだけの事です。健康な方でも試験の前など緊張すれば尿意を

感じ、尿が溜まっていなくてもトイレに行かないと落ち着かなくなると思いますが、これは生理的な現象で病気ではありません。

ところで膀胱など下部尿路の働きは尿を出す排尿機能と尿を溜める蓄尿機能から構成されており、正常では排尿にかける時間は極めて短く、溜めている時間が殆どです。また尿を溜めているのに特別な努力を要しません。この蓄尿機能が障害されると昼間頻尿（昼間の排尿回数が多い）、夜間頻尿（排尿のため夜間何回も起きる）、尿意切迫感（突然起こる強い尿意で我慢できない）、尿失禁（解らない間の尿漏れ）などが生じます。専門的にはこれらの蓄尿機能障害のなかで特に尿意切迫感が強いものを過活動膀胱（over active bladder:OAB）として扱います。従来このOABは特殊な疾患とされていましたが、近年国際学会の方針

で自覚症状に基づき簡易診断が可能になり、また治療薬の開発が重なり積極的な治療が行われる様になり、市場原理も一部働いたとご理解下さい。さらにはストレスが多い現在社会では精神面での緊張・不安も頻尿と密接な関係があります。最近の調査によれば成人の12%程度がOABの症状を呈すると言われています。

その中で治療を要するもの、原因となる病気が無いかのチェックが必要です。脳や脊髄の病気、前立腺や骨盤底筋の問題など様々な病気が隠れている場合もありますので気になる方は受診して下さい。その際は排尿状態の記録が有効なので何時にどの位を排尿したかを記録して持参するところをお勧めします。

